

平成29年度

# 市立川島中学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

- ①家庭と連携しながら基礎・基本を身に付けさせる家庭学習の確立
- ②様々な場面でうまく自分の思いや考えを表現し伝える力を身に付けさせる授業等の取り組み

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
岸田 恭子	山田匠(校長) 北岡八千代(教頭) 原田節子(研修主任) 十川富博(1年主任) 平島徳子(2年主任) 明石浩二(3年主任・生徒指導主事) 三橋博之(進路指導主事) 佐藤笑子(人権教育主事) 田中良仁(特別支援コーディネーター)

校長

山田匠 印

### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	新聞コラムの視写を継続することで語彙だけでなく文章の書き方に工夫が見られる。また、辞書などを活用し語彙力をふやしている。自主勉強の課題や英語Bノートを提出することで各教科の基礎的・基本的な力の定着につなげている。	①全国学力テスト・県ステップアップテストで平均正答率を県平均以上にする。また、無解答を減らす。 ②各教科の家庭学習の提出率を100%にする。			
課 題	習熟度の差が激しく、二極化している。家庭学習が不十分で学力の定着しない生徒にいかん基礎的・基本的な力を定着させるか。	①各教科の授業だけでなく朝学習の確認テストもする。 ②全職員、授業の始めに「本時の目標」を提示する。また、ICTを活用する研修・研究授業を行なう。③月1回コラムの視写又は週末課題を実施する。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>
	①各教科において継続して繰り返し確認テストを行なう。 ②授業の始めに「本時の目標」を提示して学習内容に意識をもたせ、またICTなどを取り入れて、生徒に興味・関心をもたせ、分かりやすくやる気もてる授業を旨とする。	①各教科の授業だけでなく朝学習の確認テストもする。 ②全職員、授業の始めに「本時の目標」を提示する。また、ICTを活用する研修・研究授業を行なう。③月1回コラムの視写又は週末課題を実施する。			

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	全校生徒集会・ふれあい人権学習会などでは、課題に対して真剣に考え、発表者の意見をしっかりと聞き自らも発表しようとする態度を身につけている。	①授業や集会等で自分の意見を発表できる生徒を70%以上にする。 ②読書記録カードを記入し、毎月1冊以上の本が読める。			
課 題	授業・テストなどでは自分の考えや意見に自信がもてず、表現力や発信力に欠けるところがあり、個人差もある。	①1分間スピーチでまとめる力・表現力を育てる。また、行事ごと感想を書かせ、原稿用紙の9割以上書けるようにする。 ②本の読み始めと終わりを読書記録カードに記録させる。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>
	①学習活動にアクティブ・ラーニングを取り入れ、自分の意見や思いを表現する場面をつくる。 ②朝の読書の確保と生徒集会や専門委員会など他人の意見を聞いたり意見交換したりする機会を増やす。	①1分間スピーチでまとめる力・表現力を育てる。また、行事ごと感想を書かせ、原稿用紙の9割以上書けるようにする。 ②本の読み始めと終わりを読書記録カードに記録させる。			

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	授業準備ができていて、落ち着いた態度で授業に取り組む。各教科の授業を大切にしようとする姿勢が見られる。	①「毎日の足跡」の記録を振り返ることで自主的に時間帯や時間・内容を改善しようとする。 ②自主勉強提出率を100%にする。 ③授業開始1分前には着席し机の上に準備をしている。			
課 題	自主学習に対する取り組み方が分からず、家庭学習の習慣が身につけていない生徒がおり、授業で学んだ知識・技術が十分にいかせていない。	①年2回三者面談で「毎日の足跡」をもとに保護者ととも家庭学習について考える。 ②学期に1回手本となる友達の自主勉強ノートを参考に学習の質を高める機会をもつ。 ③職員会や学年部会での教師間の意識確認。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>
	①家庭学習時間を「毎日の足跡」に記録させ、振り返らせることで、家庭での学習への取り組み方を考えさせる。 ②友達の自主勉強ノートや学習に対する取り組み方を紹介する。③教師はチャイム前に教壇に立つ。	①年2回三者面談で「毎日の足跡」をもとに保護者ととも家庭学習について考える。 ②学期に1回手本となる友達の自主勉強ノートを参考に学習の質を高める機会をもつ。 ③職員会や学年部会での教師間の意識確認。			

## 平成29年度 学力向上ロードマップ

